

景観フォーラム

巻頭言

厳しい記録的な雪をもたらした冬が過ぎ、春うらら春爛漫の桜吹雪が素晴らしい、新たな命の到来です。花粉症の方々にとって、この季節は大変な時期となるかもしれませんが、矢張り、春そして初夏と続く季節は何故か心がうきうきしてなりません。この時期にこそ“景観まちあるき”がおすすめの季節かも知れませんね。

さて、いい季節になりクリミアへ観光にでもと計画されていた方にはとんでもないことが起こりました。クロアチアの民主化運動が平和の祭典であるソチオリンピックを裏切るように、これほど早くクリミア半島のロシア併合になるとは思いもしませんでした。民主化運動という現象は、場合によっては国家にとっては都合の悪いことになるのは理解できても、これほどドラスティックに政治行動に移行するとは想像もしていませんでした。

世界が国際化 (Internationalization) から今や地球化 (Globalization) になり、情報が素早く通じるネット社会となり、人々の民主化への願望は留まるところがありません。民主化運動とはまさしくコミュニティの力の証であり、旧来からの為政者と被為政者との関係をなくしつつあります。“景観から考えるまちづくり”とは「良き景観のあるところ良きコミュニティが存在し、良きコミュニティは良き景観を創造する」を念頭に行動しておりますので、今回の政治劇はまさしく、国家とコミュニティの関係をそして国というものと私たち自身という生活者の関係を本源的に考え直す時期が到来しているのかも知れません。(齊藤全彦)

お知らせ

〈予定〉

景観セミナー

- ・5月14日 (水) 18:30~20:00
「湘南地区の景観整備」
- ・6月18日 (水) 18:30~20:00
「風景画と景観」
- ・9月17日 (水) 18:30~20:00
「気候変動が景観に与えるもの」
- ・10月15日 (水) 18:30~20:00
「府中市の景観整備」

景観まちあるき

- ・4月19日 (土) 東京都田端地区
- ・7月26日 (土) 藤沢市湘南地区
- ・11月15日 (土) 府中市内

理事会

- ・4月23日 (水) JICA研究所
18:30~

当団体を通してご縁のあった真鶴町の産業面から賑わいを起こそうという施策の一環として現在 Startup Weekend 真鶴 (以下 SW) の6月開催準備が進行中です。

<http://manazuru.startupweekend.org/>

(町村規模では初開催)

SW の説明は上記サイトにも掲載されていますが、米国発祥で世界500都市規模での開催に広がっている世界最大級の起業家育成コミュニティです。金曜夜に集まり日曜晩まで、1つの週末54時間を費やして (起業) アイデアを形にする優れたフォーマットが出来上がっています。コミュニティ醸成の1手法としても大変参考になります。ご注目ください。

湘南学園におけるLCF(Landscape Community Framework)を活用した景観教育

NPO法人日本景観フォーラム 景観教育プロジェクトチーム

1. 教育問題の現状分析

◆社会的要因

*社会問題化した“いじめ”の恒常的敷衍化と対応不可状況

- ① “いじめ”問題は学校内部だけの問題ではない
- ② “いじめ”対策は一教師の対応では不可
- ③ “いじめ”問題解決のためのシステムを導入する。

◆個別的要因（湘南学園）

- ①幼稚園から高校までの一貫教育（篤い人間関係と逃げ場なし）
- ②一定レベル以上の所得の家庭生活（高い要求と認識相違）
- ③短期的目標と長期的目標の相乗効果

◆国際的要請

★<ESD(Education for Sustainable Development)>の構築（2005年国連持続可能な開発のための教育10年）

ESDを構築する前提として、平和や国際的な連携を学校での実践を通じて促進することを目的に設けられたユネスコ・スクールは、下記の4分野を基本テーマとしている。

- (1)地球規模の問題に対する国連システムの理解。
- (2)人権、民主主義の理解と促進。 (3) 異文化理解。 (4) 環境教育。



<長期にわたる総合的な持続可能な教育計画が必要>

★景観教育は 地球規模の問題に対する国連システムの理解 (2) 人権、民主主義の理解と促進 に貢献する。

2. ESD構築のためのブレインストーミング

◆湘南学園のメインコンセプトは何か

- ⇒自由な人間像の構築（市民意識の醸成）
- ⇒質的に高い教育内容の提供

◆生徒たちのメインコンセプトの受容状況（学校において）

- ⇒生徒と教師がこのコンセプトについて話し合う事があるか？
- ⇒生徒たちがこのコンセプトについて話し合う事があるか？

◆家庭と生徒との関わり（家庭において）

- ⇒自分と家族の関係について話し合う事があるのか？
- ⇒自分と生徒（友達）との関係について話し合う事はあるか？

◆社会との関わり（学校と家庭において）

- ⇒勉強と社会との関係について話し合う事があるか？
- ⇒生徒たちと社会との関係について話し合う機会はあるか？

★勉強・遊び以外について話し合う事はあるのか？

3. 景観教育

★景観教育はserendipity*（セレンディピティ）をベースにした“話し合い”をツールとして全員参加の意見交換で成り立ち、市民意識のコンセプトを作り上げることを目標にする

* 瓢箪から駒、遇察力（例：コロンブスのアメリカ大陸発見、諸々の科学的発見など）

<手法>

- ①景観概念の理解⇒景色・風景・景観・風土などを実例を示して話し合いで勉強する（具体的写真を用いる）
- ②“景観まちあるき”設計⇒場所設定と内容の組み立てを生徒たち自身が話し合いで作る
- ③“景観まちあるき”実践⇒一日かけて（半日でも可）②の計画にのっとり話し合いながら実行する
- ④“景観まちあるき”話し合い⇒撮ってきた写真を参加者全員で話し合いでLCFを作成する
- ⑤“景観まちあるき”発表会⇒④で作成したLCFを参加者全員で話し合いながら発表する（意見交換）

4. 景観教育の実践（湘南学園）

★湘南学園では“総合学習”の一環として実施された

<内容>

- ①理解：2013年6月26日（水）2限を用いて実施された
- ②設計：今回は初めてのケースにより予め用意しておいた
- ③実施：2013年7月5日（金）9：00鎌倉駅集合
9：30スタート⇒12：00昼食（鶴岡八幡宮内の休憩所）
⇒鎌倉彫記念館にて伝統工芸を勉強
- ④話し合い/⑤発表：2013年7月11日（木）教室にて2限を用いて実施

<レビュー>

◆基本的内容は実践され生徒達の積極的な参加意識が良かった

<問題点>

- ◆②の設計を生徒自ら実施すべきではないか？
- ◆景観教育を高校生に実施できないか？

5. 景観教育の計画と実践

◆湘南学園の実践する“ESDとしての景観教育”の位置づけ

◆景観教育の長期計画（5年～10年）を明確化する

◆景観教育の年度計画を作成する

（毎年PDCA*を実践して随時改善する）

* Plan⇒Do⇒Check⇒Action

◆景観教育の年度計画実行の専任者を付ける

⇒NPO法人日本景観フォーラムが全面的支援する



景観とコミュニティ（1）

景観はコミュニティ再建のための出発点である

東京大学教養学部3年 竹之内康輔

街の景観を語る上で欠かせないものとして、「景観はコミュニティが主体となって作りあげるものである」という視点がある。これはすなわち、外観だけを意識した建築群を行政が一方的に押しつけるような上下の構造からは、真に魅力ある街をつくりだすことはできないということである。こういった視点に立つと、景観もその根底において、社会に起こる様々な問題との間と関係性を持っていると言えるのである。

そのような問題の1つとして、3月に埼玉県富士見市で起こった、幼児がベビーシッターのもとで死亡した事件があげられるだろう。事件の詳細については触れないが、この事件によって多くの議論が生まれたのは周知である。おそらく誰もが「なぜネット上で知り合った人に自分の子供を預けられるのだろうか？」という疑問をまず抱いたに違いない。実際に母親の安易な行動を批判する声が多くあった。

しかし、これは本当に母親の無責任を責めれば済む問題だろうか。この母親もおそらく面識の無いベビーシッターに預けることは、保育所に預けるよりもずっと危ないということはわかっていただろう。さらに言えば、事件の以前にも彼女の子供が怪我をしてベビーシッターのもとから帰ってきたことがあったと報道されており、母親としても苦渋の決断でベビーシッターを利用したに違いない。ここで問題とすべきなのは母親個人ではなく、その行動を余儀ないものとした社会的状況である。

この問題への対策としてまず思いつくのが、保育施設の拡充と経済的福祉政策であろう。この2つは目下行政が取り組んでいるものであり、それらがこの母親へきちんと還元されていれば、すなわち保育施設が身近にあり、かつ所得が十分にあれば、この事件は起こらなかつたかもしれない。

この悲劇の母親に限らず、現代の出産・育児世代を取り巻く環境はかつてなく過酷である。平均所得は落ち込むばかりであり、そもそも結婚までたどりつけない人々も多くいる。親族や近所との付き合いは希薄化する一方であり、非金銭的関係のもとで他人を頼ることは難しくなっている。しかしながら、少子化を考える上では、こういった世代が出産・育児を達成できる環境をどうにか整えなくてはならない。

行政もそのために懸命に働いているのであろうが、公的機関だけでどうにかできるものではないことは誰もが直観的に感じているだろう。個と公の領域でどうにもならないとなると、共の部分でどうにかするしかない。必要となるのはやはりコミュニティの再建であろう。地域全体で次世代を育てていくという意識を共有できれば、育児世代の荷も軽くなる。また、犯罪が少ないかどうかは、その地域の所得の程度よりも、コミュニティの連帯の強さに連関しているという主張もあり、今回の事件を念頭におけば防犯の強化という面でもコミュニティは重要と言える。

冒頭で述べたように、景観もコミュニティと切り離せない関係にある。景観はコミュニティの機能の度合いを測るバロメーターと言える。景観への意識や取り組みを喚起し、組織立てていく立場にある人間は、景観という目に見える尺度を利用することで、効果的にコミュニティの改善を促していくべきである。そして、そういう使命を負った人間の最終的な目標は、単なる街の外観整備のみならず、共助を必要とする人々も話し合いの輪に取り込み、景観を切り口にコミュニティを再設計する、というものでなくてはならない。その結果として得られるものは、美しい景観のみに留まらず、現代日本社会が抱える諸問題の突破口なのだ、という自覚が求められる。



長谷寺の丘から見る鎌倉市長谷の街並み



展望台から見たサンフランシスコの街並み

世界の景観めぐり 第5回 シーサイド (アメリカ・フロリダ州)

NPO法人日本景観フォーラム 監事
(株) グローバル研修企画 代表 小林 均

「シーサイド」は、アメリカ・フロリダ州の北西、メキシコ湾に面したリゾート・タウンです。1981年に分譲がスタートし、現在650戸の戸建て住宅（別荘）と200戸の共同住宅からなり、タウンセンターには郵便局（アメリカで一番小さい郵便局といわれている）、レストラン、ショップ、マーケット等がある。シーサイドはその土地の所有者であり開発者であるロバート・デービス氏と、現在のアメリカで住宅地開発の主流をなしている「TND=Traditional Neighborhood Development=伝統的近隣住区開発」の提唱者で最も有名なシティ・プランナーであるDPZ（アンドレズ・ドゥアニーとエリザベス・プラター・ザイバーク夫妻）の出会いから始まった。ロバート・デービス氏は、子供のころ祖父の別荘地で過ごした、人々が椅子の置かれたポーチで潮風に吹かれながら寛いでいたことや、道を行き交う人々が言葉を交わしあった様子を思い浮かべ、このような別荘地を造りたいと強く望んでいた。そこに従来型の大規模開発に疑問を持ち、新しい住宅地開発を模索していたDPZと出会うことによって、ヒューマンスケールな別荘地の開発がスタートすることになった。この「シーサイド」は90年のタイム誌で、アップルのパソコン・マッキントッシュとともにこの「10年で最高のデザイン」の一つに選ばれた。また、英国のチャールズ皇太子も「シーサイド」を絶賛し、彼の提唱するアーバンヴィレッジ運動にも大きな影響を与えた。「シーサイド」がTND=ニューアーバニズムの原点であり、メッカともいわれる所以である。

「シーサイド」の街並みデザインの特徴としては、以下の点があげられる。

- ・街の中心から半径400メートル四方以内に住宅が建てられ、どこへでも徒歩5分以内で行ける。
- ・各住宅の裏手にはフットパス（徒歩道）が引かれ、その歩道だけを通って近隣の住宅を訪問できる。
- ・すべての建物は海に向いており、多くの住宅に海の眺望を楽しめる見晴らし台が付いている。
- ・メキシコ湾に向けて直角に作られた道の先端の砂丘の上には、様々なデザインのパビリオンが建てられている。
- ・ほとんどの住宅は白い柵状の低いフェンスで囲われている。
- ・窓の形状は縦型の長方形に統一されている。
- ・住宅の色は明るいパステルカラーで統一されている。

この「シーサイド」の成功に刺激され、同様のコンセプトのリゾート開発（ウォーターカラー、ローズマリービーチなど）が周辺で行われ、現在この周辺は一大リゾート地域となっている。



<LFJブックレビュー38>

『田端文士村』近藤富枝著 中公文庫 原著初版1975年刊

作家は風景をどのように見ているだろうか。この書は取り立てて田端の風景そのものを論じているわけではない。むしろ、文学者を中心とした芸術を愛し、芸術を生業としている群像を田端という地に垣間見ているのであろう。主人公は、芥川龍之介（1892-1927）。そして脇役は室生犀星（1889-1962）である。芥川はシャキシャキの下町江戸っ子であり、犀星は金沢出身の田舎育ちである。芥川を中心とした人間模様、犀星を慕ってくる人たちの生きざま。それらが「アトリエ付きの家がところどころにあり、白いエプロンをかけた女給のいるカフェや、モダンなパンもあって若々しかった」田端という当時は大変新しい田園都市の中で醸成される様が謳われている。

この芸術家村のスタートは東京芸大に通っていた陶芸家板谷波山が住み着いたところから始まる。当時の田端の印象は「一面の菜畑と桃林で、夢のように美しい村だった」という。今では全く想像もつかぬ場所であり、「大根と里芋はこの地の特産物であった」という指摘には、近代化に成功したと言われる東洋の奇跡である日本というこの国の変貌はいかばかりか想像を超えたものがあるのかもしれない。

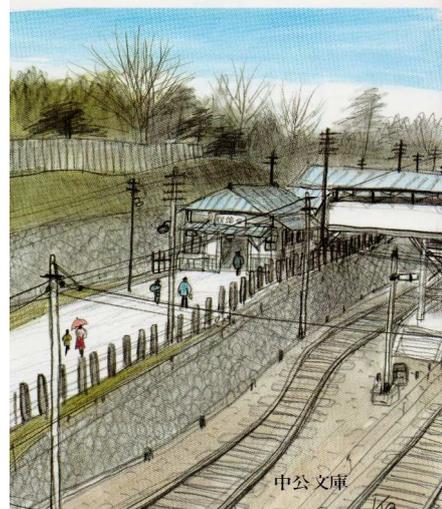
この地は作家ばかりではなく中川一政、岡本一平/かの子夫妻、木村宗八、などの画家も多数集まり、また彼らを経済的に支えるメセナたちとして鹿島建設の御曹司、鹿島龍蔵、そして出光興産創業者である出光佐三などが住み始めたのである。このメセナたちは、唯唯、芸術家を経済的に支えるという意義よりも、彼ら自身が実に芸術を愛し、そこに生きそのような生き方を愛でた人々であった。

近代日本文学を語るとき夏目漱石は当然言及せざるを得ないが、35歳という夭折した芥川龍之介の絢爛たる輝きは決して無視することは出来ぬ存在であろう。一見気難しい印象を持つ芥川は、この書からの印象はサロンの中心的人物であり、実に人間好きのする人であったようだ。そこに、日本の近代詩歌の始まりを告げる室生犀星の憎めぬ人柄で飄々と人に接する人物像がこの田端という地で生き続けている。

景観を語るとき、私達はそこで長い時間が醸成した文化の香りがする風景を前提としている。人間の生業がどこからともなく臭い、そしてそこで生きた人々の足音がどこからともなく聞こえてくるような風景が必ず景観の奥には存在し、それこそを見出すことによって私達は限りない喜びを体験できるのである。（齊藤全彦）

田端文士村

近藤富枝



★今回の会報から下記のような新しいコラム欄「**天地玄黄**」を設置いたしました。景観に関する忌憚ないご意見をコラムとして会員・非会員問わず、匿名にて掲載いたします。（編集部）

天地玄黄 ① 「電線マンと電信柱氏の泣き言」

「日本の風景を描いている中で、私達を描いてくれている画家はあまり見当たりませんね。」と電線マン。「私達なんか日本の凛々しさを代表していると思うのですが。世界遺産になった富士山に影絵のように映った電線と電信柱など世界には類比すべきものない希少価値として、日本の美そのものとして、是非とも私達を描いてもらって第2次東京オリンピックに向けて世界に発信してもらいたいと思うのですが。」と電信柱氏。

「私達電線が出現したのは、この瑞穂の国という近代化が遅れた美しい国に電気が齎されてからでしたね。電信柱さんは私達と同時出現と考えてもいいですよ。」「そう考えてもいいのですが、最近、NHKでよくやっております“世界ふれあい街歩き”などを見ておきますと、ヨーロッパの国々には電線は全くないか、ちょっと垣間見られたとしても、電信柱というものは殆ど見当たりませんね。」電信柱氏はちょっと自尊心を傷つけられたような顔をした。「もともと近代化を齎した欧州の国々には電線電信柱は見当たらず、それを追っかけた日本などの国はなんと私達を大事にしてくれているのかという事になりますね。」と電信柱氏は胸を張った。そこへカラスの黒太郎が黒い翼を悠々広げながらやってきました。

「確かに電線電信柱があると我々カラスには便利だが、世界でもまれに見る素晴らしい自然景観を壊しているのは君たちだぞ！そしてやはり狭い日本の都市景観の中では綺麗な都市を演出しても、それを台無しにしてしまっているのは君達だし、また君達の場所は余りにも多くの空間を占有し過ぎていると思うのだが。」そこに黒太郎のガールフレンド黒姫嬢が現れて、「日本は地震国で電線の地中化は無理があるなんてあるインテリが言っていたわよ。電気がいつも用意されて安全安心社会が担保されているんだって。」「地面が良く動く国だから何でも地中に埋めるという発想はハナカラ駄目だという事かな。」と黒太郎は頷いた。それを遠くから眺めていた中年の白黒猫モモが欠伸をしながら言いました。

「どっち転んでもいいんだけど、余りにも高いもの、余り余計なもの、余りのも早いものは嫌だね！私達ネコ族がゆっくり過ごせるような空間がどうか年々減っているようだし、便利だとか言ってどんどんできていくコンビニエンスストアなどというものも電線電信柱問題と同じような問題ではないですか？」そして、「今の首相安倍さんとかさんは原発を世界に売り込んでいると聞きますが、電線電信柱も一緒に売り込んでいるのですかね。それからコンビニエンスストアも一緒にね。アハハハ・・・」

電線坊電信柱居士

〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町14-5-502

TEL : 03(3780)3814

FAX : 03(6379)6681

E-mail : info@keikan-forum.com

URL : <http://www.keikan-forum.org>



Landscape Forum of Japan